

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-43	小学校	国語科	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 101・102	あたらしい こくご 一上・あたらしい こくご 一下		

## 1. 編修の基本方針

### 豊かな学びが未来を拓く

児童は、言葉で思い、言葉で考え、言葉で表現します。人や社会、自然と言葉でつながり、自らの世界を広げていきます。

「言葉の力」は、児童の生きる力そのものです。この教科書は、児童が国語を豊かに学ぶことを通じて、未来を拓く基盤となる確かな「言葉の力」を身に付けることを目指し、以下の3点を柱として編集されています。



特色

1

### 「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

幼児教育との円滑な接続を図り、幼児期に育った資質・能力を生かしながら、主体的で対話的な学習を展開します。

特色

2

### 「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にししながら、言葉に関わる初歩的な力を着実に身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めます。

特色

3

### 「学び続ける心」をしっかりと育てる

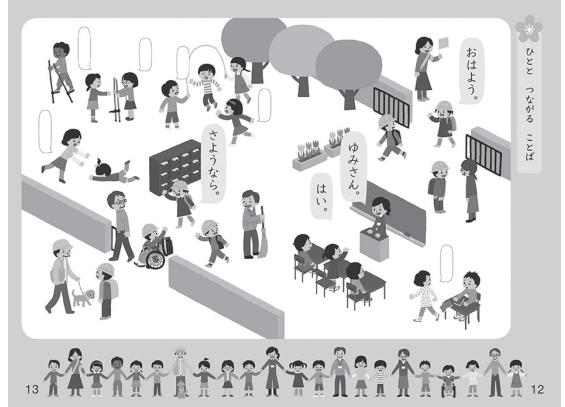
学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度を育みます。

# 「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

幼児教育との円滑な接続を図り、幼児期に育った資質・能力を生かしながら、主体的で対話的な学習を展開します。

## 1. 入学の喜びを学ぶ力に。入学時の児童の思いに応えます。

- 先生や新しい友達と良好な関係を築き、安心して学校生活を送りたいというのは、入学時の児童にとっての切実な願いです。国語科のスタートには、言葉を介してその願いを実現していく学習を位置づけました。



### 「ひととつながることば」(上 12～13)

学校生活におけるさまざまな場面で、人とのつながりを作る言葉について考え、使えるようにします。

## 2. 豊かな体験を国語科の学びに。幼児期に育った資質・能力を生かします。

- 遊びを通じて育まれた友達との言葉による伝え合い。自然の不思議に対する素朴な気付きやみずみずしい感性。絵本に触れることで芽生える文字への関心やのびやかな想像力。幼児期の豊かな体験の中で育った資質・能力を大切に生かして、国語科の学びにつなげます。



### 「なにに見えるかな」(下 30～35)

秋の自然物を感性豊かにとらえて他のものに見立て、そのことを言葉にして友達との対話を深めます。

# 「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしなが、言葉に関わる初歩的な力を着実に身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めます。

## 1. 「何ができるようになるか」を明確に示しています。

- 上巻では、教材名に何を学ぶかを端的に表すようにしました(上 34～35「ぶんをつくらう」、60～61「ちいさいつ」、100～103「えにっきをかこう」など)。
- 下巻では、単元ごとに「ことばの力」を明示し、学習の要点をしっかりとおさえられるようにしました。

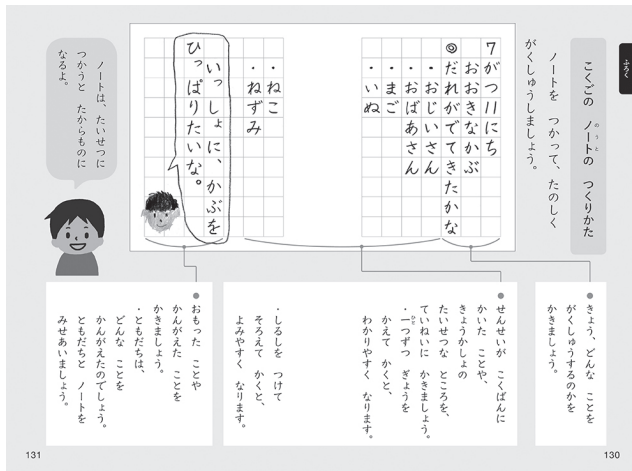
### 「ことばの力」(「スイミー」の例 / 下 135)

身に付けた「ことばの力」は、以後の単元の学習に生かすことで、より確かな力となります。

★  
★  
ことばの力  
おはなしの すきな ところを  
見つける  
おはなしの 中で すきな  
ところを 見つけると、  
おはなしを よむ ことが、  
さらに たのしく なります。  
すきだと おもった わけを  
ともだちと つたえあうと、  
おはなしを よむ たのしさが  
ひろがります。

## 2. 言葉による見方・考え方を働かせて学習を深めます。

- 思考の手立てとしてのメモ例、カード例、ノート例や、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示し、多様な見方・考え方を働かせて学びを深めるよう促しました。



左…「こくごのノートのつくりかた」  
(上 130～131)  
上…児童キャラクターのつぶやきの例  
(下 78)

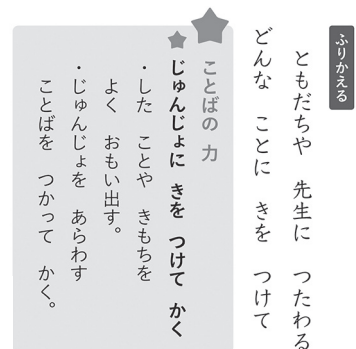
## 特色 3 「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度を育みます。

### 1. 学習を振り返り、次の学習への意欲を高めます。

- 下巻の各単元では、学習を振り返る場面を設けました。自分がどんなことを頑張って、何ができるようになったかを確かめることで、自分の成長や国語を学ぶことの意義に気づき、さらに学びたいという意欲へとつなげていきます。また、「ことばの力」と対照することで、次にどんなことを頑張りたいかを考えることにもつながります。

「ふりかえる」と「ことばの力」(「おもい出してかこう」の例 / 下 65)



ふりかえる  
ともだちや先生に つたわるように、  
どんな ことに きをつけて かきましたか。

### 2. 年間を通した読書指導で、 読書に親しむ習慣と態度をはぐくみます。

- 単元の学習に関わる本を紹介した「こんな本もいっしょに」を随所に設けるとともに、読書に関わる単元・教材を年間を通して設けました(上 24～25「ほんがたくさん」、104～105「としよかんはどんなところ」、下 24～29「ほんはともだち」、82～85「すきなおはなしはなにかな」など)。

左…「こんな本もいっしょに」(下 81)  
右…「ほんがたくさん」(上 24～25)



## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
さとうとしお どうやってみをまもるのかな いるいるなふね 子どもをまもるどうぶつたち	●食べ物や乗り物、動植物など、児童の関心が高い題材を取り上げた説明的文章の読解を通じて、知識や教養、真理を求める態度を養うようにしています。(第1号)	上40～47 上70～77 下43～53 下101～111
とんこととん おおきなかぶ かいがら ありがとう サラダでげんき おとうとねずみチロ スイミー	●家族や友人との心の交流や他者理解の大切さを描いた文学的文章の読解を通じて、豊かな情操や道徳心を培い、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第1号、第3号)	上50～55 上84～95 上114～121 下巻頭 下5～19 下67～81 下119～135
よろしくね すきなきょうかはなあに すきなおはなしはなにな	●個々の興味や関心、価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	上10～11 下56～59 下82～85
ことばあそびうたをつくらう なにに見えるかな ことばであそぼう おはなしをかこう ことばをあつめよう	●感性豊かに表現することを通じて、創造性を培うようにしました。(第2号)	上122～125 下30～35 下60～61 下92～97 下112～113
はじまるよ よろしくね ひとつつながることば なにに見えるかな 小学校のことをしょうかいしよう	●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動を通じてその楽しさや大切さに気づき、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うようにしました。(第3号)	上1～7 上10～11 上12～13 下30～35 下114～117
さとうとしお どうやってみをまもるのかな 子どもをまもるどうぶつたち	●自然の恵みや動植物の生命力や知恵について述べた文章の読解を通じて、生命を尊び、自然を大切にする態度を養うようにしました。(第4号)	上40～47 上70～77 下101～111
みんなにはなそう はなしたいなききたいな なにに見えるかな はっけんしたよ	●身近な自然との触れ合いや観察の中で気づいたことを表現する活動を通して、生命を尊び、自然を大切にする態度を養うようにしました。(第4号)	上36～39 上110～113 下30～35 下38～41
むかしばなしをたのしもう おはなしをかこう 花さかじいさん	●人々に親しまれている昔話に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	下88～91 下92～97 下142～151

## 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### 1. 全ての児童が使いやすく分かりやすい紙面の配慮と工夫

#### ① ユニバーサルデザインへの取り組み

- シンプルなデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同一の内容の拡大教科書を発行します。



## ② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい配慮をしています。
- 語のまとまりが分かりやすいように、文節ごとの分かち書きをするとともに、単語や文節の途中での改行を避け、全ての児童に読みやすくなるように配慮しています。
- 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット（点）を示しています。

## ③ 人権上の配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしました。
- 特にイラストの表現では、身体的特徴の過度な強調は避けるよう配慮しました。

## ④ 造本上の工夫

- 本文の文字には、本教科書のために特別に開発した教科書体を使用しています。おおらかでしっかりとしたデザインで読みやすいだけでなく、硬筆書写の手本をモデルとしており、文字指導に適した書体です。
- 第1学年の児童の発達の段階に配慮し、複雑な操作が必要な特殊な体様のページは避けるようにしました。また、インターネットの利用を前提とするような学習は避け、必要に応じて教師用指導書に示唆するようにしました。
- 第1学年の児童が長期にわたって毎日使用することをふまえて、特に堅牢な針金綴じで製本しています。
- 通学時の持ち運び等の負担を軽減するため、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用しています。
- 環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。

# 2. 今日の課題への取り組み

## ① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか（「ことばの力」）を明示するとともに、学習過程を具体的に記述しているので、無理なく指導できます。
- 教師用指導書を通じ、学習指導をさまざまな面から支援します。また、インターネットを通じ、学習に役立つデジタルコンテンツを配信します。

## ② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 幼児教育との接続に十分な配慮を払っています。特に、入学後2週間は、各校のスタートカリキュラムに柔軟に対応できるようにしています。
- 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。（「こんなことしたよ」上80～83、「はっけんしたよ」下38～41、「小学校のことをしようかしよう」下114～117など）

## ③ 道徳教育との関連

- 児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通して、相互理解を深める態度を養います。
- 自他の尊重や生命に対する畏敬、伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通して、豊かな道徳性を養うようにしました。（本趣意書 p4「対照表」参照）

## ④ 環境教育への対応

- 身近な自然との触れ合いや観察で気付いたことや考えたことを表現したり伝え合ったりする学習活動を通じて、自然に親しみ、自然を大切にすることを養うようにしました。（「みんなにはなそう」上36～39、「はなしたいなききたいな」上110～113、「なにに見えるかな」下30～35、「はっけんしたよ」下38～41など）

# 3. その他の取り組み

## ① デジタル教科書の発行

- 教科書と同内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表，担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-43	小学校	国語科	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 101・102	あたらしいこくご 一上・あたらしいこくご 一下		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

1

### 「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

#### 1. 幼児期の豊かな体験を基盤に

- 児童は、幼児期の遊びを中心とした自発的な活動の中で、友達と協働する楽しさを味わってきました。入学後の2週間は、各校のスタートカリキュラムに応じて、幼児期の体験を生かし、言葉で友達とつながりながら、言葉への関心や気付きを深める学習を展開します。

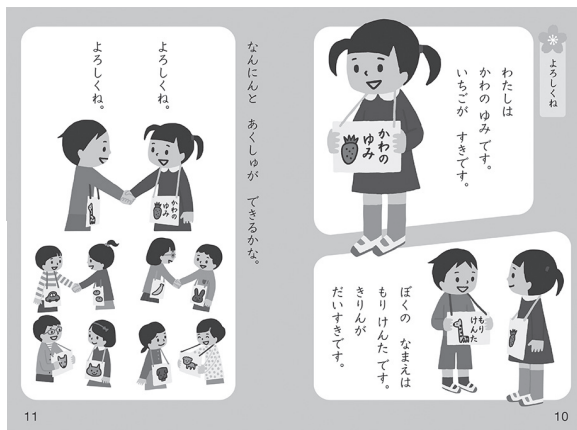


冒頭教材「はじまるよ」(上1～7)

新しい友達と、声を合わせたり、動作をつけたりしながら、言葉のリズムを楽しみ、親しんでいきます。

#### 2. 「1年生になったら……」の思いに応える

- 「字をたくさん書けるようになりたい」「友達をたくさん作りたい」……。入学時の児童の、自らの成長への願いに応えて、幼児期に育った資質・能力をさらに伸ばす学習を大切にしました。

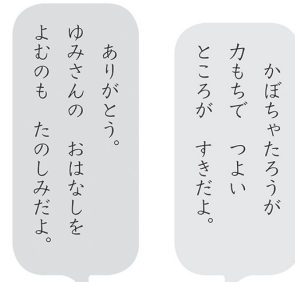


「よろしくね」(上10～11)

「幼稚園教育要領」等に表示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、主に「言葉による伝え合い」「文字等への関心・感覚」を生かしながら、新しい友達との関係を作ります。

#### 3. 協働と共有で、共に伸びる

- 友達と協働して学習の課題に取り組むこと、考えを共有して互いに認め合い高め合うこと。この二つを大切にすることで、共に伸びる対話的な学びを実現できるようにしました。



左…ともだちとはなす。(下34)

右…おはなしをよみあう。(下96)

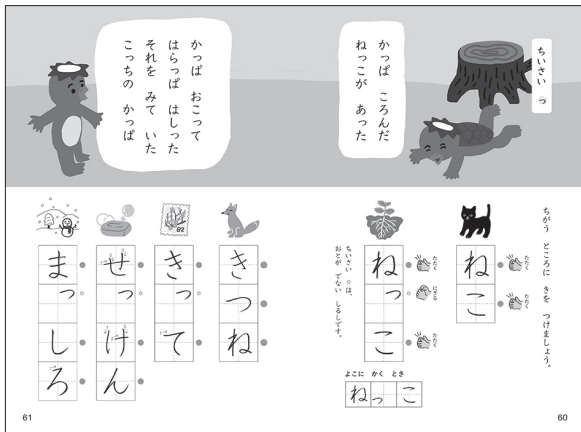
友達との協働や共有の場面を、児童キャラクターのイラストで随所に提示し、対話的な学びを促しました。



# 「言葉の力」がしっかり身に付く

## 1. 一つ一つを、着実に

- 入門期（上巻）では、文字の基礎や各領域の初歩的な事項を、小さな段階を踏みながら、着実に身に付けるようにしました。



上…「ちいさい」(上 60～61)

中…「のばすおん」(上 68～69)

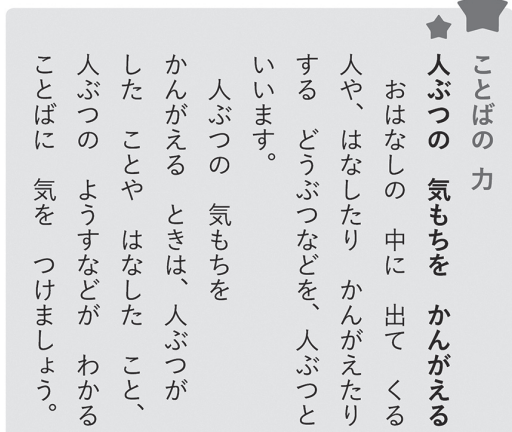
下…「ちいさいやゆよ」(上 78～79)

文字の習得において、特につまずきやすい特殊音節（促音、長音、拗音）について、一つ一つ段階を踏みながら学習していきます。

特別支援教育の視点から、視覚化と動作化を取り入れて、音と文字との関係が体感的に捉えられるようにしています。

## 2. 「言葉の力」を明確に

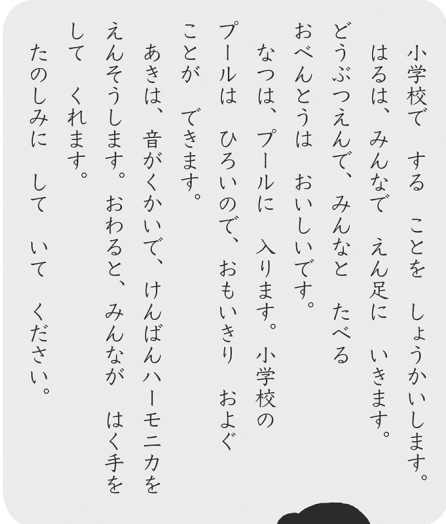
- 下巻では、各单元ごとに「言葉の力」を明示しています。単元の学習を通じて、「何ができるようになるか」を明確にして取り組むことができます。



「ことばの力」(「おとうとねずみチロ」の例/下 80)

## 3. 生きて働く「言葉の力」を

- 身に付けたい「言葉の力」に即して教材や題材を選定するとともに、適切な言語活動を通して学習するようにしました。言語活動の目的や条件に合わせて、多様な見方や考え方を働かせることにより、実の場で生きて働く「言葉の力」を身に付けます。



「小学校のことをしょうかいしよう」(下 114～117)  
新しい1年生に入学を楽しみにしてもらうには、どんなことを、どんな順に話すとよいかを考えます。

# 「学び続ける心」をしっかりと育てる

## 1. 国語を学ぶ価値に気付く

- 下巻の各単元では、「言葉の力」とともに、学習を「ふりかえる」場面を設け、自らの学習を価値付ける視点を投げかけました。自分の頑張りに気付くことで、国語を学ぶことへの肯定感や有用感を高めます。

「ふりかえる」と「ことばの力」（「おもい出してかこう」の例 / 下 65）

学習のプロセスに目を向け、どんなことに気がつけたり頑張ったりして取り組んだかを振り返るように促します。「言葉の力」と対照することで、今後への課題を見いだすことにもつながります。

★  
ことばの力

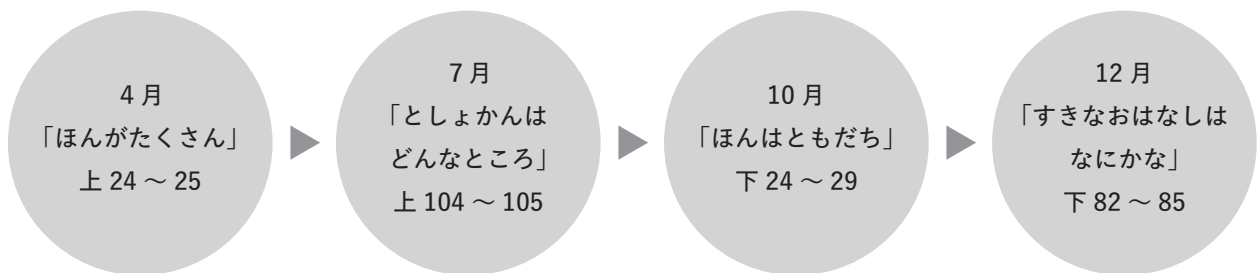
- ・ じゅんじよにきをつけてかく
- ・ した ことや きもちを
- よく おもい出す。
- ・ じゅんじよを あらわす

ことばを つかって かく。

ふりかえる  
ともだちや 先生に つたわるように、  
どんな ことに きを つけて かきましたか。

## 2. 読書の楽しさと喜びを味わう

- 年間を通じて読書指導に力を入れています。さまざまな本と出会い、自らの世界を広げていく楽しさや喜びを味わうことによって、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。



## 検討の観点と内容の特色

観 点	特色及び該当箇所例 (頁)
<b>1. 教育基本法の遵守</b>	
	● 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。
<b>2. 学習指導要領の遵守</b>	
	● 小学校学習指導要領（国語科）に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しています。
<b>3. 内容・組織</b>	
① 内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。</li> <li>● 上巻においては、取り扱う内容が端的に分かるよう、教材名を工夫しました。（上 34 「ぶんをつくらう」、78 「ちいさいやゆよ」など）</li> <li>● 下巻においては各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示しました（下 19, 59 など）。</li> <li>● 学習した「言葉の力」を以後の学習に生かしたり、相互のつながりを考えたりする際に使えるように、下巻の付録に「一年で学しゅうした『ことばの力』」を設けました。（下 162）。</li> </ul>
② 程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。</li> <li>● 学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。</li> </ul>



③ 組織・配列	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上巻に相当する時期を<b>入門期</b>とし、文字の基礎や各領域の初歩的な内容について、小さな段階を踏みながら繰り返し定着が図れるようにしています。</li> <li>● 下巻では、上巻の学習を受け、各領域の基礎的な内容について<b>重点的・系統的</b>に取り扱いました。</li> <li>● 領域間で学習が有機的につながるように、配列を工夫しました。(上 100「えにっきをかこう」→上 110「はなしたいなききたいな」など)</li> </ul>
④ 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 友達との<b>協働的な学び</b>や学び合い、<b>考えの共有</b>の場面を多く設定し、<b>対話的な学び</b>を展開できるようにしました。(上 38, 113, 下 34, 91, 96 など)</li> </ul>
④ 資質・能力の育成への配慮	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしました。(下 5「サラダでげんき」→下 20「かたかなをかこう」など)</li> <li>● <b>文字の習得</b>を確実にするため、下巻にひらがなおよび既習漢字の復習・確認のページを設けました。(下 42, 66「ひらがなのれんしゅう」、100, 118「かん字のれんしゅう」)</li> <li>● <b>語彙を豊かに広げる</b>学習を設定しました。(上 22「あいうえおのことばをあつめよう」、122「ことばあそびうたをつくろう」、下 60「ことばであそぼう」、下 112「ことばをあつめよう」など)</li> </ul> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>1単元1領域</b>を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な<b>言語活動</b>を設定し、活動の目的や条件にそった<b>課題解決的な学習</b>を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身に付くようにしました。</li> <li>● 思考を言語化して考えを広げたり整理したりするツールとしての<b>ノートやメモ、カード</b>を重視し、随所に例示しました。(上 130「こくごのノートのつくりかた」、下 39「けんたさんの『はっけんメモ』」など)</li> <li>● 話例や文例、児童キャラクターの吹き出し等に、学習に関わるさまざまな視点や観点を示唆し、児童が言葉による多様な<b>見方・考え</b>方を働かせ、<b>深い学び</b>を実現できるようにしました。</li> </ul>
④ 指導計画作成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入学後の2週間を、各校の<b>スタートカリキュラム</b>に応じて、生活科を中心とした合科的な指導や柔軟な時間割編成に対応できる構成としました。(上 1～25)</li> <li>● 各校の<b>カリキュラム・マネジメント</b>に資するよう、取り扱う題材は、他教科等との<b>合科的・関連的指導</b>が図れるものや、<b>家庭や地域との連携</b>が図れるものを積極的に選定しました。(上 80「こんなことしたよ」、下 38「はっけんしたよ」、114「小学校のことをしようかしよう」など)</li> <li>● <b>2学期制、3学期制</b>のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしています。</li> <li>● <b>複式指導</b>に配慮して、第1学年と第2学年で、なるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています(入門期を除く)。</li> </ul>
<b>4. 特別支援教育や色覚特性などへの配慮 (ユニバーサルデザイン)</b>	
① 特別支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、シンプルなレイアウトや色使いを工夫しました。</li> <li>● 文字や語を正確に読む基礎を学ぶ段階において特につまずきやすい<b>特殊音節</b>(長音、促音、拗音など)や<b>助詞</b>(は、へ、を)について、特別支援教育の見地と実践の成果を生かし、スモールステップで体感的にとらえられるようにしました。(上 60「ちいさいっ」、68「のばすおん」、78「ちいさいやゅよ」/上 48「はをつかおう」、56「をへをつかおう」など)。</li> <li>● 語のまとまりが分かりやすいように、文節ごとの<b>分かち書き</b>を用いています。また、文意を理解しやすいように、<b>文節で改行</b>しています。</li> <li>● 下巻では、行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、<b>1行ごとのドット(点)</b>を付けています。</li> </ul>
② 色覚の多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>色覚の多様性</b>に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。</li> </ul>
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。</li> </ul>
<b>5. 表記・表現、印刷・造本に関する配慮</b>	
① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。</li> </ul>
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発・使用しています。</li> </ul>
④ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の長期にわたる使用、通学時の持ち運びに配慮し、用紙は十分な強度を持ち、かつ軽量なものを使用しています。表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。</li> <li>● 印刷は鮮明で正確です。</li> <li>● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。</li> </ul>

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書の構成・内容 (単元名)	学習指導要領の内容			配当時数					配当学期	
		知識及び 技能	思考力・表現力・判断力等			知・技	話・聞	書く	読む		計
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと						
上 1	はじまるよ	(1)イク		(1)カ				2	2	一 学 期	
上 10	よろしくね	(1)オ	(1)アエ			1			1		
上 12	ひとつつながることば	(1)オ	(1)ア			2			2		
上 14	こえをとどけよう	(1)イ	(1)ウ			1			1		
上 16	えんぴつをつかうときにたしかめよう	(1)ウ			1				1		
上 18	かいてみよう	(1)ウ			1				1		
上 20	あいうえおのうた	(1)イク			2				2		
上 22	あいうえおのことばをあつめよう	(1)ウオ			3				3		
上 24	ほんがたくさん	(3)エ		(1)カ(2)イ				2	2		
上 26	あめですよ	(1)ク		(1)イオ(2)イ				4	4		
上 32	ゝや°のつくじ	(1)イウオ			3				3		
上 34	ぶんをつくろう	(1)ウカ	(1)ウ				2		2		
上 36	みんなにはなそう	(1)イオ	(1)アウ(2)ア			4			4		
上 40	さとうとしお	(1)カキ(2)ア		(1)アオ(2)ア				4	4		
上 48	はをつかおう	(1)ウカ	(1)ウ				1		1		
上 50	とんこととん	(1)キク		(1)イ(2)イ				5	5		
上 56	をへをつかおう	(1)ウ	(1)ウ				2		2		
上 58	きいてつたえよう	(1)イ	(1)エ			4			4		
上 60	ちいさいっ	(1)イウオ			3				3		
上 62	ことばあそび	(1)イウ(3)イ			3				3		
上 64	あひるのあくび	(1)イウク			4				4		
上 68	のばすおん	(1)イウオ			3				3		
上 70	どうやってみをまもるのかな	(1)カ(2)ア	(1)ウ	(1)ウ(2)ア			2	4	6		
上 78	ちいさいやゆよ	(1)イウオ			3				3		
上 80	こんなことしたよ	(1)ウオ	(1)アウ(2)ア				4		4		
上 84	おおきなかぶ	(1)ク(2)ア	(1)ウ	(1)エ(2)イ		1		5	6		
上 96	かぞえうた	(1)エオ			5				5		
上 100	えにっきをかこう	(1)アエ	(1)アウ(2)イ				4		4		
上 104	としよかんはどんなところ	(3)エ			1				1		
上 106	あるけあるけ／おおきくなあれ	(1)ク		(1)イ				3	3		
上 110	はなしたいなききたいな	(1)イキ	(1)アウエ(2)ア			5			5		
上 114	かいがら	(1)ク	(1)オ	(1)エ(2)イ		1		5	6		
上 122	ことばあそびうたをつくろう	(1)オク	(1)アオ(2)ウ				6		6		
上 126	かんじのはなし	(1)エ	(1)ウ	(1)ア			2	3	5		
下 5	○おはなしをよもう サラダでげんき	(1)ウ	(1)ウ	(1)イオ(2)イ			4	6	10		
下 20	かたかなをかこう	(1)ウオ	(1)ウ		2		1		3		
下 24	ほんはともだち	(3)エ		(1)オ	2				2		
下 30	なにに見えるかな	(1)イ	(1)オ(2)イ			6			6		
下 36	よう日と日づけ	(1)エオ	(1)ウ		2		1		3		
下 38	はっけんしたよ	(1)ウオ	(1)アイウ(2)ア				8		8		
下 43	○のりもののかををしらべよう いろいろなふね	(2)ア	(1)ウ(2)ア	(1)アウ(2)ウ			6	7	13		
下 54	まとめてよぶことば	(1)オ	(1)ウ		2		1		3		
下 56	すきなきょうかはなにあに	(1)ア(2)ア	(1)イウ(2)ア	(1)ア		4	1		5		
下 60	ことばであそぼう	(3)イ			3				3		
下 62	おもい出してかこう	(1)ウ(2)ア	(1)イウエ(2)ア				9		9		
下 67	○こえに出してよもう おとうとねずみち口	(1)オク	(1)ウ	(1)エカ(2)イ		3		9	12		
下 82	すきなおはなしはなにかな	(3)エ	(1)ア	(1)カ(2)イ			3	4	7		
下 86	○しをよもう みみずのたいそう	(1)ク		(1)イ(2)イ				2	2		
下 88	むかしばなしをたのしもう	(3)ア		(1)カ(2)イ				6	6		
下 92	おはなしをかこう	(1)ウエ	(1)アウオ(2)ウ				9		9		
下 98	かたかなのかたち	(1)ウエ	(1)ウ		2		1		3		
下 101	○くらべてよもう 子どもをまもるどうぶつたち	(1)ク(2)ア	(1)ア	(1)ウカ(2)ア			5	9	14		
下 112	ことばをあつめよう	(1)オ	(1)ウ		1		2		3		
下 114	小学校のことをしょうかいしよう	(1)アエ(2)ア	(1)イウ(2)ア	(1)ア		5	1		6		
下 119	○すきなところを見つけよう スイミー	(1)ク	(1)ウ	(1)エオ(2)イ		2		10	12		
下 136	かたちのにているかん字	(1)エ	(1)エ		1		2		3		
下 138	一年かんをふりかえろう	(1)キ	(1)アエオ				8		8		
計					47	39	85	90	261		
							書写および予備		45		
							総計		306		